

日本人児童生徒の中国語発音調査： 在日中国人児童生徒との比較

A Case Study of Japanese Children's Chinese Pronunciation: Comparing Japanese Children with Chinese Children in Japan

高 岩
GAO Yan

キーワード

- ①中国語の発音 (Chinese pronunciation) ②日本人児童生徒 (Japanese Children)
③中国人児童生徒 (Chinese Children in Japan) ④男女の差 (differences between boys and girls)
⑤音楽的習い事及び英語学習 (lessons of musical instruments and English)

I. はじめ

高 (2021) による中国語の発音テストにおいて在日中国人児童生徒⁽¹⁾の多くにとって、自然な中国語の発音の獲得が難しいケースがみられた。日本人児童生徒に同じ発音テストをする場合、どのような結果が得られるのか、以下の3点について調査したい。

- (1) 日本人児童生徒の中国語発音調査と在日中国人児童生徒の調査 (国際結婚のケースに限る) には、絶対的な差がみられるか
- (2) 女子児童が男子児童より、優勢がみられるか
- (3) 音楽的な習い事及び英語学習と中国語の発音の間に関連性が確認できるか

II. 先行研究

在日中国人児童生徒の中国語習得と保持は難しく、筆者自身もこの状況を確認している。日本で生まれた子どもの多くに中国語が話せないケースがみられる。また、中国で生まれ中国語を獲得した後、来日し、日本の幼稚園や保育園に通っているうちに中国語を話す能力が著しく低下するパターンもある。

さらに、在日中国人児童生徒の中国語語彙力に関しては、小野博 [他] (1998) では中国から来日した児童・生徒は来日時に中国語力を保持していても、母語保持の教育が不十分な言語環境の元でほぼ一年を経過すると、学年相当の学習言語力としての中国語語彙力をほぼ消失するが、生活言語力が保持される場合が多いと述べている。

姜 (2020) は、「家庭内の言語使用」と「子どもの二言語における語彙力と読書力」の関係

を調査した。調査の結果の一つとして、「母親の学歴」と「こどもの中国語の読書力」の間に有意な相関関係がみられると述べている。

日中バイリンガルの幼児一人（2歳1か月まで）の発音パターンに関しては、王（2019）によると、単音節の習得度が一番高く（64個/112個）、重複音と二音節も多数習得され（23個と22個）、二音節以上の発音の習得度が一番低く、3個しかないという調査結果を示している。

在日中国人児童生徒の中国語発音に関する調査は著者が知る限りにおいて少なく、日本人児童生徒の中国語発音に関する調査はなおさら稀である。そのため、本稿では、2021年12月、日本人児童生徒5名を対象として、中国語発音の調査を実施した。

Ⅲ. 日本人児童生徒の中国語発音の調査概要

3.1 調査方法

2021年12月、日本人児童生徒5名（男子2名、女子3名）に以下の内容を著者が発音し、生徒に復唱させた。著者がそのデータを録音し、録音データにランダムに番号を振り、著者を含む3人の評価者がこれらの録音データに対して評価と採点を行った。発音できない調査対象者に著者が単語ごと発音し、繰り返し聴かせることもあった。発音評価する際に、これらの状況を配慮し、判定した。

3.2 調査内容

朱（2010, 2011）を参考に以下の調査内容とした。日本語母語話者の中国語学習者にとって難しいと推定されている音節を多く含む詩を選ぶ。

mǐn nóng

悯 农

Lǐ Shēn

李 绅

chú hé rì dāng wǔ

锄 禾 日 当 午，

shuí zhī pán zhōng cān

谁 知 盘 中 餐，

hàn dī hé xià tǔ

汗 滴 禾 下 土。

lì lì jiē xīn kǔ

粒 粒 皆 辛 苦。

3.3 調査項目

詩全体的発音において、特に重視しているのは以下である。

(1) 以下の音節の発音

[chú]、[hé]、[rì]、[dāng]、[shuí]、[zhī]、[cān]

(2) 声調

3.4 調査協力者

調査協力者は2つの家庭、5人の日本人児童生徒である。内訳は男子2名、女子3名、年齢

は7歳1名、11歳3名、13歳1名である。彼らの年齢や音楽的習い事また英語学習の情報は表1及び表2である。

表1 家庭1 日本人児童生徒に関する情報

性別	年齢 (2021.12 現在)	学年 (2021.12 現在)	音楽的な習い事	英語学習状況	他の習い事
男子	11	小5	ピアノ (6歳～現在)	英語（小3から 学校の英語活動 と小5から週1 の英語塾：単語 や文法を中心）	絵画、水泳
女子	7	小1	ピアノ (6歳～現在)	英語（小1から 学校の英語活動）	絵画、水泳

表2 家庭2 日本人児童生徒に関する情報

性別	年齢 (2021.12 現在)	学年 (2021.12 現在)	音楽的な習い事	外国語の学習状況	他の習い事
女子	13	中1	なし	英語（小3から 学校の英語活動 と中学校の英語 授業）	剣道、書道
男子	11	小5	なし	英語（小3から の英語活動）	剣道、書道
女子	11	小5	なし	英語（小3から の英語活動）	剣道、書道

Ⅳ. 在日中国人児童生徒の中国語発音の調査概要

4.1 調査方法

在日中国人児童生徒5名（男子3名、女子2名）に日本人児童生徒と同じ調査内容を中国人の保護者が発音し、子供たちに復唱させた。保護者がそのデータを録音し、著者に送った。著者が録音データにランダムに番号を振り、著者を含む3人の評価者がこれらの録音データに対して評価と採点を行った。発音できない調査対象に保護者が単語ごと発音し、繰り返し聴かせることもあった。発音評価する際に、これらの状況を配慮し、判断した。ただし、今回の調査で日本人児童生徒の中国語発音調査と在日中国人児童生徒の比較ため、高（2021）の調査対象にあった両親とも中国人のケースは除いた。

4.2 調査内容 日本人児童生徒の中国語発音調査と同じ内容である。

4.3 調査項目 日本人児童生徒の中国語発音調査と同じ内容である。

4.4 調査協力者

調査協力者は3つの家庭、5人の在日中国人児童生徒である。内訳は男子3名と女子2名、年齢は5歳2名、7歳1名、8歳1名、9歳1名である（2021年1月時点）。

表 3 家庭 3 在日中国人児童生徒に関する情報

性別	年齢 (2021.1 現在)	学年 (2021.1 現在)	家族構成	親の出身地	中国での長期滞在(月)	中国での短期滞在(日)	家庭内の主な使用言語	音楽的な習い事と英語学習
女子	9 歳	小 3	父(日本人) 母(中国人)	父(京都) 母(四川省)	38 か月 (中国広州市生まれ、 2 歳ごろから広州の幼稚園を通っていた)。	年 間 30 日 程 度 (3 歳 ～ 8 歳 休 み期間)	基本的に日本語で過ごす。 母の簡単な中国語の指示を理解でき、日本語で返事する。	バレエと英会話教室(3 歳～現在)と小学校の英語活動

表 4 家庭 4 在日中国人児童生徒に関する情報

性別	年齢 (2021.1 現在)	学年 (2021.1 現在)	家族構成	親の出身地	中国での長期滞在(月)	中国での短期滞在(日)	家庭内の主な使用言語	音楽的な習い事と英語学習
男子	8 歳	小 2	父(中国人) 母(日本人) 弟 2 人	父(上海) 母(京都)	8 か月 (上海生まれ、 8 か月頃から京都で生活することとなった)。	一 回 つ き 10 日 間 程 度 (3 回)	基本的に日本語で過ごす。 父の簡単な中国語の指示を理解でき、日本語で返事する。	なし 小学校での英語活動
男子	5 歳	幼稚園年長	父(中国人) 母(日本人) 兄 1 人 弟 1 人	父(上海) 母(京都)	0	一 回 つ き 10 日 間 程 度 (2 回)	同上	なし 幼稚園での英語活動

表 5 家庭 5 在日中国人児童生徒に関する情報

性別	年齢 (2021.1 現在)	学年 (2021.1 現在)	家族構成	親の出身地	中国での長期滞在(月)	中国での短期滞在(日)	家庭内の主な使用言語	音楽的な習い事
男子	7 歳	小 1	父(日本人) 母(中国人) 妹	父(徳島) 母(吉林省)	0	0	親はほぼ全て日本語で会話する。 数個の中国語単語の発音と意味の理解ができる。	ピアノ (4 歳～現在)
女子	5 歳	幼稚園年長	父(日本人) 母(中国人) 兄	同上	0	0	同上	ピアノ (3 歳～現在) 幼稚園での英語活動

V. 分析方法

5.1 評価者

日本人児童生徒 5 名の音声データを中国人教師 3 名が評価した。A は中国にいる日本語講師（教師歴 2 年）、30 代である。B は著者で日本にいる中国語講師（教師歴 13 年）、40 代である。C は日本にいる中国語講師（教師歴 30 年）、50 代である。3 名とも女性である。日本滞在歴は A が 5 年ほど、B は 20 年ほど、C は 30 年ほどある。

5.2 評価項目

詩全体的発音において特に重視しているのは以下の音節の発音である。

(1) [chú]、[hé]、[rì]、[dāng]、[shuǐ]、[zhǐ]、[cān] と声調

5.3 評価方法

評価にかかった時間は評価者が一人につき一つの音声データを 1 分から 2 分程度、作業は 3 日に分けて 3 回行った。三日とも協力者ごとに音声データをランダム並べ替え、評価者に短時間で直感的に判断し、聞き取れなかった場合は 3 回まで再確認した。評価者全員はイヤホンを使用した。

5.4 評価基準

本研究の目的は日本人児童生徒の中国語発音を調べることである。そのため、評価は「中国語話者並みの発音だ」に対して①全く同意しない（1 点）②やや同意しない（2 点）③やや同意する（3 点）④同意する（4 点）4 段階で行うことにした。

5.5 評価分析

まず評価者 A、B、C が調査タスクの詩の全体的な発音を 3 回評価の平均値を求め、次に、A、B、C 評価者の総合評価の平均値を出した。

評価点は 4 点に近ければ近いほど「中国語話者並みの発音だ」であり、1 点に近ければ近いほど中国語話者並みではないという結果となる。

VI 在日中国人児童生徒の中国語発音の分析方法

6.1 評価者

協力者 5 名の音声データを 30 代（A）、40 代（B）と 60 代（D）中国人評価者 3 名が評価した。A は中国にいる日本語講師（教師歴 1 年）、B は著者で日本にいる中国語講師（教師歴 12 年）、D は日本にいる中国語講師（教師歴 28 年）。3 名とも女性である。A と B は、二つの調査とも参加した。D の日本滞在歴は 30 ほどである。

6.2 評価項目 日本人児童生徒の中国語発音の調査と同じである。

6.3 評価方法 日本人児童生徒の中国語発音の調査と同じである。

6.4 評価基準 日本人児童生徒の中国語発音の調査と同じである。

VII. 調査結果

7.1 日本人児童生徒の中国語発音の調査結果

表 6 家庭 1 日本人児童生徒の中国語発音の評価

性別	A による詩全体評価	B による詩全体評価	C による詩全体評価	総合評価
男子	3.10	3.33	3.26	3.23
女子	1.30	1.41	1.35	1.35

表 7 家庭 2 日本人児童生徒の中国語発音の評価

性別	A による詩全体評価	B による詩全体評価	C による詩全体評価	総合評価
女子	1.25	1.28	1.20	1.24
男子	1.60	1.83	1.74	1.72
女子	1.10	1.23	1.10	1.14

7.2 在日中国人児童生徒の中国語発音の調査結果

表 8 家庭 3 在日中国人児童生徒の中国語発音の評価

性別	A による詩全体評価	B による詩全体評価	D による詩全体評価	総合評価
女子	1	1.33	1.33	1.22

表 9 家庭 4 在日中国人児童生徒の中国語発音の評価

性別	A による詩全体評価	B による詩全体評価	D による詩全体評価	総合評価
男子	2	2.33	2.33	2.22
男子	1	1	1	1

表 10 家庭 5 在日中国人児童生徒の中国語発音の評価

性別	A による詩全体評価	B による詩全体評価	D による詩全体評価	総合評価
男子	2	2.18	2.33	2.17
女子	2.10	2.33	2.56	2.33

VIII 調査結果と考察

8.1 日本人児童生徒の中国語発音調査と在日中国人児童生徒の調査（国際結婚のケースに限る）には、絶対的な差がみられるか

日本人児童生徒 5 名と在日中国人児童生徒 5 名の中国語発音を調査した結果において、必ずしも在日中国人児童生徒の中国語発音に絶対的な優勢がみられない。家庭 1 の日本人児童生徒（男子）は中国への渡航歴がなく、中国語を聴いたり、話したりの経験がないにもかかわらず、中国語の発音の評価が 3.23 である。この男子生徒は、英語学習に興味を持ち、発音練習も積極

的に取り組んでいる。絵画もピアノも完成度がかなり高い。語学に関心を持つとともに、鋭い観察力や分析力も兼ね備えることで、中国語発音の高評価に繋がったと考えられる。

家庭1の日本人児童生徒（女子）の評価は1.35である。家庭2の日本人児童生徒（女子）2人の評価は1.24と1.14である。この家庭の男子生徒の評価は1.72である。このような評価は想定内であり、一般的であるといえる。家庭2の男子生徒が兄弟より評価が高かったのは、復唱する際に、失敗をまったく恐れず、中国語の発音に集中できたことが大きいためであると想定される。

日本人児童生徒に対して、家庭3の在日中国人児童生徒の発音評価は1.22である。特筆すべき点は、この生徒が中国の広州で生まれ、3歳まで中国で生活していたことである。さらに、3歳から8歳まではほぼ毎年中国での短期滞在期間もあった。日常生活の中でも、母親の中国語の指示がある程度理解できている。この在日中国人児童生徒の中国語発音の評価と会話理解力の差は、母親の出身地の方言による影響だと思われる。

家庭4の在日中国人児童生徒男子1人の発音評価は1である。この生徒は日本生まれで、中国での短期滞在経験が2回しかない。しかし、日常生活の中で、父親の簡単な中国語の指示がある程度理解できている。この生徒の中国語発音の評価は1なのは、活発な性格で父親の指示に従わないことが多く、中国語の発音の習得しようとする意欲があまりないためだと考えられる。

日本人児童生徒と在日中国人児童生徒の中国語発音調査から、一定の差が認められるケースもある。家庭4の在日中国人児童生徒男子の評価は2.22であるとともに、家庭5の在日中国人児童生徒男子の評価は2.17、女子の評価は2.33である。家庭4の評価2.22の男子は評価1男子の兄である。上海に生まれ、8ヶ月まで生活していた。家庭内で父親の簡単な中国語の指示が弟より理解している。さらに、父親から中国語を教えられるときに、積極的とは言えないが、数回練習することがある。

家庭5の在日中国人児童生徒男子と女子は、中国へ行ったことがなく、家庭内もほとんど日本語のみである。しかし、時々母親と一緒に中国語の発音を練習している。

日本人児童生徒5人と在日中国人児童生徒5人だけの中国語発音調査ではあるが、中国語のような比較的発音が難しい言語の発音習得においては、より発音の基礎、すなわち、子音、母音と声調などを意識して訓練する必要があるということを示されている。

日本人児童生徒の中国語発音調査と在日中国人児童生徒の発音調査は評価項目に加え、評価方法も基準も同じである。しかし、2つの調査の評価者の3人の内1人が違う評価をしている。また、在日中国人児童生徒が保護者の発音を復唱していた。以上の点から、日本人児童生徒の中国語発音の調査と在日中国人児童生徒の比較には、絶対的な差が確認できたと結論付けることはできないため、今後の調査が必要である。

8.2 女子児童が男子児童より、優勢がみられるか

中国語の発音に関する2つの調査では、女子生徒の優勢が確認されなかった。

8.3 音楽的な習い事及び英語学習と中国語の発音の間に関連性が確認できるか

日本人児童生徒の家庭1と在日中国人児童生徒の家庭5から、ピアノの習い事と英語学習の影響が確認できている。しかし、在日中国人児童生徒家庭3の女子には、その効果があまり見

られていない。

Ⅸ 今後の課題

今回の研究は、日本人児童生徒5名（2つの家庭）と在日中国人児童生徒5名（3つの家庭）という限られたデータに基づくものであり。今後さらに多くの生徒と家庭を調査したい。

2つの調査の評価はともに語学教師による主観的判断であったため、今後は音声分析のソフトを用いた客観的な評価も必要であると考えられる。

注（1） 本稿では、臼井（2011）に従って、「在日中国人児童生徒」とは、①彼らの両親が中国人で短期間あるいは長期間日本で働いている。日本で生まれた、或いは両親に連れられ来日した。中国を離れて、国籍は変わっていない。②国際結婚で、母親が中国人で、父親が日本人である。逆のケースが少ない。日本国籍を取得している。③日本に帰化し、または永住権を持ち、ほとんど中国に帰らない子どもを表す。ただし、今回の研究では、国際結婚のケースに限る。

謝辞

本調査にご協力頂いた日本人児童生徒とご家族及び在日中国人児童生徒とご家族の皆様には、心より感謝申し上げます。また、発音評価にご尽力くださった先生たちに、厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 臼井智美（2011）「外国人児童生徒の指導に必要な教員の力とその形成過程」『大阪教育大学紀要』第Ⅳ部門 第59巻 第2号 pp.73～79
- 小野博 [他]（1998）「中国から来日した児童・生徒の日本語・中国語力及び計算力の調査とその応用」『中国帰国者定着促進センター紀要』（6） pp.278～292
- 戸田貴子 [他]（2006）「第二言語における発音習得プロセスの実証的研究」（<http://www.gsjal.jp/toda/dat/kaken02.pdf>）
- 姜芳雨（2019）「家庭言語環境と子どもの二言語能力の関係について－中国につながりを持つ子どもの語彙力と読書力に注目する研究－」（https://www.kodomo-no-nihongo.com/files/uploads/第5回大会_1_発表抄録原稿_姜芳雨_2.pdf）
- 劉蓉蓉（2018）「中国在住日本人児童の日本語会話力と家庭言語環境」（https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihongokyoiku/170/0/170_17/_pdf）
- 王漫（2019）「日中バイリンガル幼児の言語習得初期における語彙の発達－21か月までの発話を中心に－」『神奈川大学 人文研究』198 pp.191～200
- 朱春躍（2010）『中国語・日本語音声の実験的研究』くろしお出版
- 朱春躍（2012）「中国語発音教育の問題点—音声研究成果の教育への応用」『中国語教育』（10） pp.10-14